

# 京都市脱炭素先行地域の概要

## 京都の文化・暮らしの脱炭素化で地域力を向上させるゼロカーボン古都モデル

### 1. 対象とする地域の位置・範囲、需要家数、民生部門の電力需要量等

伏見エリアを中心としつつ全市を視野に入れた  
**文化遺産群・商店街エリア等**

#### 文化遺産群の脱炭素転換

再エネ設備・蓄電池  
再エネ電力調達

2030年に向けて、100箇所を目標

#### 伏見商店街エリアの脱炭素転換

PV・蓄電池  
再エネ電力調達

2030年に向けて、3商店街・187全加盟店を目標

- ・伏見大手筋商店街
  - ・納屋町商店街
  - ・竜馬通り商店街
- アーケード全長560m



伏見エリア

- ・市内で最も古い市街地の一つ、寺社や商店街を拠点に地域コミュニティを形成
- ・環境関連施設が集積

京都広域再エネグリッド協議会で  
エネルギー管理



#### 住宅群・エリア

- ◆既存住宅群 市内各所 100戸
- ◆市有地活用型脱炭素街区エリア
  - ・伏見工業高校等跡地エリア 400戸
  - ・三宅市営住宅跡地エリア 14戸

#### グリーン人材育成拠点群

- 2030年に向けて、6拠点を目標
- ・龍谷大学（深草キャンパス）
  - ・立命館大学（衣笠・朱雀キャンパス）
  - ・京エコロジセンター
  - ・他3拠点

#### 推進体制

- ・京都市脱炭素先行地域推進コンソーシアムを設立
- ・分野ごとにWGを設けて、民間事業者・金融機関等と連携し取組を推進

歴史の古い文化遺産や商店街等を脱炭素転換することを通じて、訪れてよし、商ってよし、住んでよしのサステナブルな賑わいを創出

## 2. 脱炭素先行地域における取組

### ○ 民生部門の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロの主な取組

#### (1) 文化遺産の脱炭素

駐車場や敷地内施設等導入箇所を工夫し、太陽光などの再エネ設備・蓄電池を導入することや、機器の省エネ改修、再エネ調達により脱炭素化を目指す

#### (2) 商店街の脱炭素

ソーラーアーケードや店舗への太陽光発電設備・蓄電池等を導入する。

#### (3) 住まいの脱炭素

- 地元工務店・優良ストック住宅推進協議会（スムストック）と業務連携し、既存住宅のZEHレベル化改修（部分改修含む）を促進
- 新たに、次世代ZEH+街区の形成と、PV・蓄電池・蓄電池制御EMS導入で経済的インセンティブを創出し、住宅の再エネ最大利用をモデル化

#### 脱炭素転換を支える基盤的取組

- (4) 京都広域再エネグリッド協議会（仮称）で地域貢献型の再エネ供給するとともに、余剰電力の融通、デマンドレスポンス等で需給調整を行う
- (5) グリーン人材育成（先行地域をフィールドに脱炭素ライフスタイル行動変容を促進）とグリーン人材育成拠点の脱炭素転換
- (6) ローカル・グリーンインパクトファイナンスで自治体負担のない民間資金供給の枠組整備。金融機関、機関投資家、市民が出資の担い手となる脱炭素ファンドを組成。地域の金融・企業・市民・行政が連携して環境・社会に良いインパクトを創出する地域金融モデルに

### ○ 民生部門電力以外の温室効果ガス排出量削減等の主な取組

#### (7) 移動の脱炭素

- 点在する文化遺産を巡るタクシーのEV転換（738台）旅行代理店や大学生が、ゼロカーボン修学旅行を企画・実施修学旅行生をグリーン人材に
- 伏見稻荷駅をゼロカーボンステーション化

## 3. 脱炭素の取組に伴う地域課題の解決や住民の暮らしの質の向上等

### (1) 地域コミュニティの活性化

京都広域再エネグリッド協議会が、商店街や寺社といった地域コミュニティ拠点を脱炭素転換するために供給する再エネ電力について、電力量料金の一部（最大2.5%）を同拠点で人々のつながりを生む活動費として寄付することで、再エネ利活用と地域経済循環・地域活性化の同時実現を目指す。活動費を基に、大学生や新たな地域住民を巻き込みながら、脱炭素をテーマにしたイベントや商品を企画し、地域コミュニティを活性化する。

### (2) 地域防災対応力の向上

寺社や商店街といった地域コミュニティの拠点が、太陽光発電設備や蓄電池を備えることで、地域における災害時の防災対応力を向上する。

### (3) 環境先進エリアとしての魅力の創出

高断熱で健康・快適に暮らせるエネルギー自立型の住まいや脱炭素ライフスタイルを実践できる脱炭素型のまちづくりをはじめ、再エネ100%転換を実現する主体を創出することで、環境先進エリアとしての魅力を創出する。SDGs学習のニーズが高まる中、EV観光タクシーで脱炭素先行地域を巡るゼロカーボン修学旅行という新たな魅力を創出する。

#### <ゼロカーボン古都モデル・他地域への展開>

- 京都市から小京都（全国40都市）等へ脱炭素転換が困難と考えがちな文化遺産の転換モデルを提示
- 本山から全国の関連寺院へ本山が集積する京都が有する全国の関連寺院へ波及する影響力
- 修学旅行生が自らの街に脱炭素体験を持ち帰り
- スムストックとの連携でZEHレベル化改修促進の枠組みを全国へ

#### <市域全体への展開> 寺社・商店街・住まいといった普遍的なコミュニティの構成要素⇒市域全体へ

- 京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～と連携し、市民・事業者が自分ごととして取り組む脱炭素アクションに
- 地球温暖化対策条例に基づく再エネ導入/建築士の再エネ説明義務制度等と一体的に取組を促すことで、市域全体に取組を拡大